

令和7年度 実務実習教科担当教員会議 議事録

1. 開催日時：令和8年3月14日（土）10:00～11:55

2. 開催様式：オンライン会議（Zoomを使用）

3. 出席者：124名

4. 本会議

（1）開会の挨拶 北陸大学 石川和宏

（2）「第110回 薬剤師国家試験問題検討委員会報告」（配付資料）

報告者 福岡大学薬学部 江川 孝 先生

（3）特別講演「薬学教育に求められる質保証と改訂モデル・コア・カリキュラムに対応した実務実習のあり方」（配付資料）

演者 和歌山県立医科大学薬学部 平田 収正 先生

（4）次回開催案内・閉会挨拶 北陸大学 石川和宏

5. 会議報告

（1）開会の挨拶

本年度の委員長である石川和宏（北陸大学）より開会の挨拶と併せて今回の会議の内容について説明があった。

（2）「第110回 薬剤師国家試験問題検討委員会報告」

福岡大学薬学部の江川先生より、2025年5月10日（土）にオンライン会議として開催された第110回 薬剤師国家試験問題検討委員会にて議論された内容が紹介された。具体的な7項目 [1. 誤りがあると判断された問題（2問）、2. 問題の観点から不適切である問題（16問）、3. 問題・選択肢の表現が不適切である問題（33問）、4. 複合性が認められない問題（17問）、5. 授業で教えた内容か？（5問）、6. 薬剤師国家試験問題として高く評価された問題（24問）、7. その他（3問）] について該当した問題番号とその内容について説明があった。これらの内容を踏まえた総合評価としては、実務実習での実体験があるかどうかによって理解や対応に差が出る可能性があるものの、全体的に実務実習を意識した良問が多いとのことであった。また、必須問題については、平易であり、広範囲に渡って出題されていたとのことであった。実践問題の難易度は中等度で、実臨床で自ら臨床上の問題を抽出して真摯に実務実習に取り組んだ学生に有利となる出題とのことであった。最後にまとめとして医師及び歯科医師の国家試験問題の作成に関してはブループリントと呼ばれる試験設計表（ブループリント）が公表されていることから、薬剤師国家試験の問題作成時にも同様な指標を設けてはどうかという提案があったとのことでした。今後も薬学生には、実務実習と国家試験との連動性を意識した学習の重要性が一層高まるものとの考えを伺うことができた。

（3）特別講演「薬学教育に求められる質保証と改訂モデル・コア・カリキュラムに対応した実務実習のあり方」

今年度は2028年2月に迫った薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）対応の

「臨床における実務実習に関するガイドライン」に準拠した実務実習のあるべき姿について、中央で認定実務実習指導薬剤師養成研修委員会の委員長を務める平田先生よりご講演をいただいた。令和4年度改訂版が目指した薬学教育は、薬剤師養成教育の「質の保証」を特に重視したものとなっているとのことであった。具体的には、命に関わるプロフェッショナルの養成には、単なる専門知識の集積ではなく、臨床を重視した学士課程教育による全人的教育と一体となった専門教育が必要であり、養成されるべき能力としては課題発見能力とともに問題解決能力について特に強調されていた。知識については、個々に学ぶ知識を体系的に理解し、一般化し、概念化して自在に応用できるようにしていくことで、新しく発見した課題や解決しなければならない問題に対応できる能力の基礎となる。こうして、今回の改訂版では特にそのような能力の修得を目指していかなければならないとのことであった。この能力に関しては、臨床能力とともに研究能力にも共通するものであることから、両能力の養成を通じた強化が本改訂版では求められており、その両面から育成された能力が医療における個別最適化へと相違なく通じると確信しているとのことであった。今回のご講演はおそらく、今後の各大学での取り組みに大きく影響を与える可能性のある非常に内容の濃いものであったと思われた。

(4) 次年度以降の開催について

次年度開催予定：日本薬学会第147年会の開催様式を踏まえ決定する予定。

次年度委員長：北陸大学 石川和宏

次年度副委員長：名城大学 野田幸裕

(5) 閉会の挨拶 北陸大学 石川和宏

以上